

デザインの役割、その1。

— デザインは人に「自信」と「誇り」を与えるもの —

田中雄一郎／クオデザインスタイル代表

昨年、2020年に東京でオリンピック、パラリンピックが開催されることが決まった。もちろん実際に世界のトップアスリートによる夢の競演を近くで見られるということは楽しみであり、経済効果も大きいと思うが、震災復興を世界へアピールすることを含め、2020年に向けて国民が一致団結して「がんばろう」という精神的支柱となるものができたことが何よりの恩恵ではないかと思う。オリンピックの開催は国民それぞれの心の中での「希望」であり、「誇り」となるものであろう。

ビジネスの中でデザインに課せられた役割として、売上やブランドイメージの向上がある。もちろんそれらが大切であることに間違いない。しかしデザインにはそういった数字や表層部分だけでは語ることができない「心」のパワーが秘められている気がする。

IT自体をデザインする全国でも有数の企業「株式会社オービス」のビジュアルリニューアルプロジェクト。創業25周年を機にこれからの時代に対応する新たなロゴマークを作りたいと、なんと社員さん達の声で動き出したプロジェクトだ。最初の打ち合わせで、本来なら社員旅行で使うお金をこれからの会社のためになるプロジェクトに使いたいとおっしゃられたのを聞いて、意識の高さに驚くのと同時に、責任の大きさに身の引き締まる思いがした。

社内にプロジェクトチームを発足し、自分たちのデザインは自分たちで決めて行くという体制で進められた。様々な議論と検討の末、最終的に会社の特徴を表したとてもシンプルなロゴタイプが完成した。



完成後しばらく経ってチームの方々と慰労会の席でこんな意見が聞かれた。「新しいデザインになって名刺をどんどん配りたくまりました」「お洒落になったね！とよく言われうれしくなります」「このデザインをきっかけにお客さんとのコミュニケーションがスムーズになりました」「自信と誇りを持って仕事に取り組めるようになりました」「今まで薄かった愛社精神が芽生えてきました」

正直ビジュアルデザインを変えたからと言って、とたんに業績に結び付くかどうかはわからない。服装を変えたからと言ってすぐに恋人ができないのと一緒だ。でも社員の会社や業務に対する姿勢やモチベーションが向上していることだけは確かだ。楽しいことを一生懸命やれば必ず結果が出る。楽しそうに仕事をやっている人から名刺をもらおうとその人に仕事を頼みたくなるものだ。人生において多くのパワーと時間を費やす「仕事」を楽しむことができれば、それに勝るものはないだろう。

コシノ三姉妹の母・小篠綾子さんの言葉に「本当にいい服は人に誇りと品格を与え、それが希望へつながる。服は着て歩くことでそれに相応しい物事を引き寄せる」(NHK朝ドラ「カーネーション」より)とある。良いデザインにすることで「自信」と「誇り」を持つことができ、さらに良いお客さんとも巡り合えることができるということだろう。つまり我々デザイナーの仕事は、依頼者が「自信」と「誇り」を持ってこれからもっとがんばれるよう、その人に最も相応しい洋服を選んで、着せてあげることかもしれない。

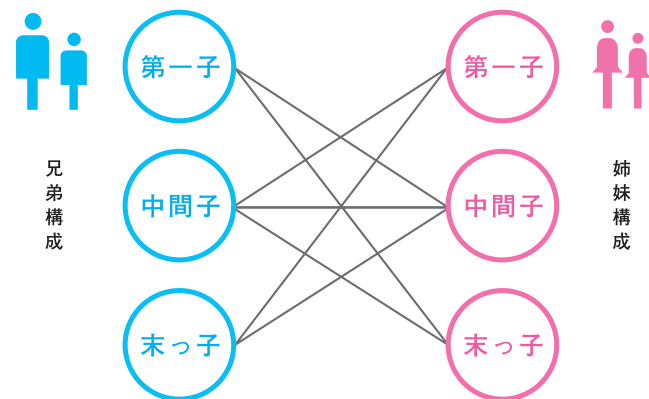
CL／株式会社オービス AD・D／田中雄一郎 P／田中園子 DF／QUA DESIGN style



田中の法則

— 人との相性は兄弟構成で決まる —

僕は恋愛や人間関係において他人との相性を見るのに独自の視点を持っている。それは血液型でも星座でもなく「兄弟構成」だ。簡単に言えば上と下、下と上が合う。つまり自分が第一子なら相手は末っ子がベストで、自分が末っ子なら相手は第一子だということ。3人兄弟以上の中間子はオールマイティーにこなす。図で示すと下のようになる。



人間関係をデザインするとは？

僕の周りには自分を含め両親、妻の両親、義兄夫婦、友達夫婦など、ほぼ十中八九この関係が成立している。日本初の新婚旅行をしたとされるあの坂本龍馬とお龍もそうだ。龍馬は5人兄弟の末っ子、お龍は5人兄弟の長女(第一子)である。この相性は夫婦だけではなく友達関係や仕事関係でも成り立っている。第一子である僕の友人のほとんどにお姉さんがいることがそれを証明している。

ではなぜこういう法則が成り立つのだろうか？すると一つの答えが見えてきた。極論人間は基本的にみんなどこかわがままである。でもそのわがままな部分を許せることができるか、できないかで人間関係、恋愛関係は決まってくるように思う。そのわがままな部分の生成には幼少時の過ごし方、つまり兄弟環境が影響している。第一子は両親から責任や忍耐を強いられながらも主導権とプライドを持つリーダー的役割となる。末っ子はそのリーダー的な第一子が手取り足取り導いてくれ付いていく機会が多く、煩わしさもあろうけど、一応頼りになる存在がいるのでどこか甘え上手になる。

この関係が生まれた直後から15年以上にわたって続くのである。しかも人間が構築される大事な時期に。その間築き上げられた性格とか役割はそう簡単に換えられるものではない。第一子同士はお互いが主導権を取り合おうとして、また末っ子同士はお互いが甘えたいので、自然と衝突することが多くなる。ようはキャラが被るのである。(もちろん大人になればそのあたりの事を我慢しながら付き合いをすることがほとんどだが。)前述の中間子は上から下から挟み撃ちに合うので実はしんどい思いをしている人が多いが、その分上や下に対する接し方を身に付けているので人間が良くできていて、誰からも好かれる人が多い気がする。また例外として年の差があれば第一子同士、末っ子同士も成り立つケースがある。

皆さんの周りにも結構な割合でこの関係が成り立っている夫婦や友達が多くないだろうか？これから恋愛をされる方は、騙されたつもりで参考にしてもらえればと思う。ちなみに一人っ子は両親からの育てられ方次第で、第一子系か末っ子系かにわかれているように思う。
※上記の法則に科学的根拠は全くなく、あくまでも個人的で感覚的根拠なのであしからず。

Yuichiro Tanaka QUADESIGNstyle (クオデザインスタイル)代表 www.quadesign-style.com

1975年岡山市生まれ。立命館大学理工学部卒業後、都市計画コンサルタントを経て、2004年妻・園子と共にQUA DESIGN style設立。同時にデザインを独学。現在岡山を拠点に活動し、企業、店舗、医療施設、美術館などのブランディングを中心に手掛けるほか、書籍の装丁や写真集の自費出版なども行う。主な仕事に岡山大学のコミュニケーションシンボルデザイン、福武教育文化振興財団のCI、岡山芸術回廊のトータルデザイン、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館「昭和展」「猪熊弦一郎展」のポスター・チラシ等デザイン、地中美術館、李禹煥美術館のパンフレットデザインなど、JAGDA正会員(岡山地区代表幹事) 中国国際ポスタービエンナーレ2013 (The 6th China International Poster Biennial)、東京ADC2013、Graphic Design in Japan 2013 入選など。